

新技術・情報名	温州ミカン園に対するタッチダウン液剤の除草効果
場所名	長崎県総合農林試験場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>草生ミカン園内で除草剤のタッチダウン液剤を、200・400・600の各倍数で10 a 当たり25 lの水量により、平成3年8月12日に散布を行った。</p> <p>その時のほ場内の優占雑草はメヒシバ、ニシキソウ、ヨモギ等で、草丈はメヒシバ30cm、ニシキソウ20cm、ヨモギ10cmであった。</p> <p>(1) タッチダウン液剤の効果の発現日、完成日は対照薬剤であるラウンドアップ液剤とほぼ同等であった。</p> <p>(2) 殺草効果では、いずれの区も効果が高かった。</p> <p>(3) 草種でみると、メヒシバ、ニシキソウ等の1年生雑草には効果は高い。ヨモギにも効果があった。しかし、ツユクサには効果が劣り枯死には至らず再生が早かった。</p> <p>(4) 抑草期間はいずれも80日間と長かった。</p> <p>(5) 土壌処理による樹体への葉害の発生は認められなかった。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>10 a 当たり25 lの散布量（濃厚少量散布）で効果が高いことから、水量に乏しい地域での利用や、散布時間が短縮できるので体への負担が少ない。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>温州ミカン栽培地帯</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>雑草の草丈が高いと散布ムラを生じるので、草丈が30cm以下の状態で散布するのが望ましい。</p> <p>また、薬効が長いので土羽面等に散布すると土壌流亡の恐れがあるので注意する。</p>	

## 2. 具体的データ

表1 温州ミカン園に対するタッチダウン液剤の除草効果と抑草期間

散布薬剤	薬量	殺草効果			再生・抑草の程度		抑草期間
		発現日	完成日	判定	実現日	程度	
	ml	日	日		日		日
タッチダウン液剤	200	2	7	×	22	±	80
	400	2	7	×	22	±	80
	600	2	7	×	22	±	80
ラウンドアップ液剤	500	2	7	×	22	±	80

1) 散布量：25ℓ/10a      2) 散布月日：平成3年8月12日

注) -：効果なし、+やや効果あり、++：効果高い、×：完全枯死

## 3. その他特記事項

担当部科名：常緑果樹科

研究期間：平成3年